

新たな子育て支援策 検討状況は

石崎 誠子議員

市独自で副食代を補助する
子育て支援事業担当部長



問 6月議会の一般質問で、新たな子育て支援策として、給食費の無償化も含め、検討していくとの答弁だったが、その検討状況は。

答 おかずなどの副食代は、これまで保育料に含まれていたが、無償化の対象外となった。10月から、主食代と副食代が実費徴収となる。このため、市独自で副食代を所得に関係なく月額3500円を上限に補助する。

問 子育て支援策として、副食代の助成を行うこととした意義とは。

答 引き続き子育て世帯の負担を軽減するために助成する。所得に関係なく副食代を助成するのは近隣市では無い。

問 第2期子ども・子育て支援事業計画をどのような考え方のもとに策定していくのか、新たな取り組み事項も含めて伺う。

答 第1期子ども・子育て支援事業計画の基本理念を継承しつつ、子育て支援策に関するニーズ・現状を反映する形で、計画の準備を進めている。第2期計画では、新たに子どもの貧困対策を盛り込む。



▲愛西市の体験型返礼品「レンコン掘り体験」

ふるさと納税寄附 増額で財源確保を

問 商工会、観光協会と連携して、新たな返礼品の開発や発掘を進めては。

答 ふるさと応援寄附金の返礼品は、事業者にとって自分たちの商品で売り込み販路拡大のきっかけになる。市にとっても農業振興や産業振興を図る手段として、有効であると理解している。今

後も商工会や観光協会の会員に働きかけをしていく。

問 体験型の返礼品もあるが、そうした「コト」を重視した返礼品についての考えは。

答 体験型返礼品は、実際に愛西市に足を運んでもらえる機会にもなることから、積極的に取り入れたい。

問 「愛西市が行う事業を純粋に応援したい気持ち」で協賛金を集める方法について考えは。

答 実施可能な事業があるか精査し、可能であればクラウドファンディング型ふるさと納税を行う。

※クラウドファンディングとは。

不特定多数の人がインターネットを通して他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うこと。